

新しい学問と教育

今日の問い

江戸時代の中ごろから、どのような学問や教育が広がったろう。

左の問いに答えるつもりで、右のノートの下線に語句を書こう。最後に「まとめ」で今日の問いに答えよう。

問い・キーワード

ノート 下線に語句を書こう

1 どのような新しい学問が生まれたか。

国学・蘭学・解体新書

古典を研究し、仏教や儒教が伝わる前の日本人の考え方を明らかにしようとする

¹ 国学 がおこり、² 本居宣長 は「古事記伝」を書いて大成した。オランダ語で西洋の学問を学ぶ ³ 蘭学 もさかんになり、⁴ 杉田玄白 らは「解体新書」を出版した。⁵ 伊能忠敬 は全国を測量して、正確な日本地図をつくった。

2 教育はどのように広がったか。

庶民は寺子屋・武士は藩校

町や村には ⁶ 寺子屋 が開かれ、庶民の子どもが

⁷ 読み・書き・そろばん など、くらしに役立つことを学んだ。諸藩は人材を育てるため ⁸ 藩校 をつくり、武士の子どもに ⁹ 儒学 や武芸を学ばせた。

年表 — この単元のできごと

1774

杉田玄白らが「解体新書」を出版する

1798

本居宣長が「古事記伝」を書き上げる

1800

伊能忠敬が蝦夷地の測量を始める

まとめ

今日の問いに答えよう。「国学」「寺子屋」の2語を使って、2文で書きなさい。

(例) 古典を研究する国学や、オランダ語で西洋の学問を学ぶ蘭学がおこった。教育も広がり、庶民の子どもは寺子屋で読み・書き・そろばんを学び、武士の子どもは藩校で学んだ。

